

# 菩提樹

に がびやくどう

## 「二河白道」の道行き

巷に外人観光客が溢れ、ホテルは日を追うて乱立、獲得できる外貨は鱈上り、加えて五輪景気、果ては大阪万博と、眼に触れるもの耳にするものことごとくが、一気呵成に繁栄への一途を歩む：令和二年の初春はこうした夢を追っておりました。

そこへもってきて、何ぞ計らん電撃の如くコロナという超微生物が、俄かに我々の夢を切り裂き喰い破り、世界こぞっての五輪も延期、人的犠牲、経済的疲弊の惨禍は眼を掩うばかりです。かねてより、陽には陰が、繁栄の影には計らざる凋落が、間々あるものとは知りながら、何人も蕩然たる春の夢のみを追っておりました。

しかし、顧みて、地球上の一萬数千発という原爆の保有は、使つてならぬものを、営々として多額の費用を投じて作るという、全く矛盾にみちた事柄であります。一方、寒暖をいとい、冬は温室にある如く暖房につとめ、夏は冷気涼風を求めての冷房は、挙句地球規模の気候変動を招来して、尠なからぬ災禍を招いております。

こうした矛盾や、自然への侵蝕に備えて、人のとるべき方途とは、夫々がその賭に安んじて、徒らに肌触りのよい安寧を求めたのではなく、もっと苦難をも甘受しての幸せとは何であるかを見直すべきでありましょう。したがって、コロナ禍の現今、ストレス解消のために：といった単純な欲望に押されての三密甘受などは論外です。ナチスに追われたユダヤの人達の、息をひそめての、いうところのホームステイは、どんなに厳しく切ないものであったでしょう。仏教には、「二河白道図」とい

発行所  
〒625-0010 舞鶴市松尾寺  
西国29番松尾心空  
編集発行人 松尾心空  
TEL(0773)62-2900  
FAX(0773)62-2028

舞鶴「静坐の会」  
4月より11月の  
第3水曜日  
舞鶴トラベルにて  
PM1時より

## 京都府指定文化財

### 本堂・仁王門修復事業

当寺の本堂と仁王門は、建立(享保十五年、一七三〇年)以来、二九〇年を経て、改築の時期を迎えております。

開山(和銅元年、七〇八年)以来、幾度も災厄に見舞われましたが、今日の建物は、正徳六年(一七一六年)の火災の後に再建されたものであります。

毎年、雪害に悩まされる当地では、雪による建物の負荷は殊の外甚大で、その都度、修復を重ねて参りました。また、昭和の初め、両建築ともこけら葺きを銅板に替えましたが、九十年を経た今日、修理の都度裏面に御寄進の方の芳名を拝見するた

びに、改めて数多い方々の御志によって、観音様を護持する建物が守られてきたことを痛感いたします。

取りあえず、今年六月末より仁王門の修復(約九千弍百萬円)にかゝり、明年末完成の予定で、本堂は令和四年より着工の予定であります。

現下、予期せぬコロナ禍の蔓延、それによる経済の沈滞等、さらでだに諸事低迷の時代ではあります。有縁の皆様方の御支援を心よりお願い申し上げます。

山主 松尾象空  
前任 松尾心空



仁王門(背面・平成十八年一月)



仁王門正面



本堂

## 松尾心空著作集

歩く巡礼 三部作

一、「歩行禅」(新装版)

二、「西国札所古道巡礼」

三、「西国三十三所徒歩巡礼地

図

歩く巡礼の「心がけ」「記録」「地図」の三点セット。

手形シリーズ 三部作

四、「人生往来手形」(新装版)

昭和五十二年に発刊された当

書は、当時の高田好胤薬師寺管

長の推挽をうけ、朝日新聞「こ

ろのページ」に紹介されたのを

機縁に十六版を重ねました。こ

のたび新装版となります。

五、「極楽往生手形」(第五版)

六、「即身成仏手形」(第四版)

隨筆

七、「現代いろは加留多」

八、「人生まんだら」(第六版)

九、「猫と和尚さん」

小説

十、「妖説水子地藏」

(日本図書館協会選定図書)

講演集

十一、「人生の達人」(再版)

十二、「人はなぜ巡礼に旅立つのか」

十三、「巡礼 まんだら」

(以上、東京・春秋社刊)

十四、「歌僧 天田愚庵

巡礼日記を読む」

(すずき出版)

小冊子

十五、「新渡戸稲造著「武士道

について」(第七版)

十六、「般若心経の「空」体験」

十七、「松尾寺蔵「国宝・絵画」

のなぞ」

